

たわわ

2017
No. 100

「たわわ」というタイトルには「小さな情報がたくさん集まって多くの実を結ぶように」という期待が込められています。



十字架の丘 ©Marius Jovaisa



リトアニアの民俗衣装 ©リトアニア政府観光局



森と湖の国 リトアニア共和国



カルヴェ湖上に浮かぶ絶景の観光地トラカイ城 ©リトアニア政府観光局

リトアニア共和国は北欧のバルト海沿岸に位置する人口約300万人の国です。ユネスコの世界文化遺産として、首都ヴィリニウスの旧市街や中世の首都ケナルヴェの考古遺跡、珍しい地形のクルシュー砂州など、美しい場所が登録されています。また、リトアニア特有の十字架の手工芸、多声音楽のスタルティネスは世界無形文化遺産に登録されています。



ヴィリニウス旧市街 ©Marius Jovaisa



クルシュー砂州 ©Marius Jovaisa

平塚市との新たな友好関係に期待

エギディウス・メイルーナス駐日リトアニア共和国特命全権大使

平塚市の皆さんに私の思いをお伝えできる機会をいただき、とても嬉しく思います。

昨年平塚市とリトアニアは、2020年の東京オリンピックにおけるリトアニアチームの事前キャンプ実施に関する協定を結びました。これをきっかけに、平塚市とリトアニアは一層親密になったと言えます。

優れたスポーツ施設があることや、「おもてなし」の心、リトアニアとの多様な交流への熱意が伝わったことから、平塚市が事前キャンプ地として選ばれました。



協定締結の様子

2020年に向けたパートナーシップはもちろん、その後も素晴らしい関係が続くことを心から願っています。

この関係は、スポーツだけでなく文化や人的交流、観光、経済、農業、教育、科学などにおいても相互に実り多いものになると信じています。私は何度も平塚市を訪れていますが、企業や、教育・研究機関、文化団体など、どれをとっても素晴らしい業績と可能性を持っていると感じています。

具体的な例としては、「リトアニアで最も親日的な」アリートス市と、平塚市の関係が発展することも私の願いの一つです。アリートス市民は日本の文化や伝統への関心が非常に高く、平塚市との交流は両市にとって有益なものになると思います。

リトアニアと日本の関係について簡単に御紹介したいと思います。



ヴィリニウス大学 ©Laimonas Ciunys

リトアニアは日本と似ているところもあり、昔ながらの伝統を重んじるとともに、先進的な技術、教育、科学といったスマートで近代的な面も持ち合わせています。織物や農業などの古来の産業と、

レーザー、ライフサイエンス、ICT分野の高い技術を生かした産業が共存しています。

リトアニアは何世紀にも渡り農業国だったので、ヨーロッパの他国やアメリカ、アジアへ輸出できるよう、高品質の食品を



ビーツのスープ ©リトアニア政府観光局

生産する技術も発展させてきました。リトアニアでは、食品は自然で健康的、高い品質であることが重視されます。じゃがいものパンケーキや鮮やかなピンク色のビーツのスープは、代表的な料理です。平塚市でも紹介していただく機会が何度ありましたが、どれも大変おいしく、リトアニアを思い出す味でした。



メルキス川 ©Marius Jovaisa

また、リトアニア人は、日本人と同じように自然が大好きです。リトアニアの美しい森、3,000以上の湖、風光明媚な川を皆とても愛しています。

遠く離れた場所にありながら、日本は私たちにとって非常に大切な、強く惹かれる国でした。19世紀後半にリトアニア

を訪れた日本の訪問団には、かの有名な福澤諭吉氏が参加していました。日本とリトアニアの公式な国交は1922年に結ばれましたので、5年後に100周年を迎えます。

20世紀には、日本人外交官杉原千敏の偉業と慈悲により2つの国にはより強い絆が生まれます。千敏氏は、日本の通過ビザを発給し、6,000人を超えるユダヤ人の命を救いました。リトアニア人は彼の功績を讃え、カウナス市とヴィリニウス市では通りに彼の名をつけたり、ヴィリニウス市内には杉原桜公園と記念碑を設置したりしています。カウナスにある杉原千敏記念館には、毎年世界中から何千人もの人が訪れています。

この10年間、リトアニアと日本は多分野において非常に良好な協力関係を築いてきました。国交再樹立25周年を迎えた2016年に、リトアニアにとって最重要な3つの分野である、輸出、科学の共同研究、観光において、日本がアジアのパートナーになったことは大変



杉原桜公園の記念碑 ©Dzoja Barysaite

象徴的な出来事です。また、両国の都市レベルでの文化交流も活発になってきています。そのような点においても、平塚市がリトアニアと多方面において交流を持つことは、人々の友好、さらには両国間の連携に多大に貢献するに違いありません。

最後に、平塚市の皆様がそれぞれ大いに活躍され、健康で豊かに過ごされることを心よりお祈り申し上げます。そして私達への温かなおもてなしへのお礼に、美しい国リトアニアにぜひ平塚市の皆さんをお招きしたいと思っています。

エギディウス・メイルーナス 駐日リトアニア共和国特命全権大使

1964年生まれ。リトアニア共和国ヴィリニウス市出身。ヴィリニウス大学医学部卒業後、小児科専門医として勤務。その後外交官となり、同大学法学部修士課程を修了。駐ポーランド大使、外務副大臣などを歴任後、2012年11月12日から駐日リトアニア特命全権大使を任命される。



©リトアニア大使館

ひらつかの文化財を知ろう⑪

屋台の上のお囃子

昨年12月1日ユネスコ無形文化遺産に友好都市高山の「高山祭の屋台行事」を含む「山・鉾・屋台行事」が登録されました。地域社会の安泰や災厄防除を願い地域の人々が一体となって執り行う祭礼行事としてユネスコに提案されていたものです。民俗学者の柳田国男は『日本の祭』という著書で、厳格な宗教儀式を「祭り」とし、見物人らの外部からの反応と一体になったものを「祭礼」と区別しています。山・鉾・屋台行事は「祭礼」の典型的なものといえます。平塚市では市重要無形文化財の指定から40周年を迎えた田村八坂神社の田村ばやしが屋台行事として広く知られています。

田村ばやしの起源は古く、伝承では鎌倉時代の三浦義村の田村館に当時の将軍頼経に伴い来訪した京都の楽人がもたらしたものとされています。屋台を引くためその上で奏でられるお囃子で、親太鼓1、締太鼓2、笛1、鉦1から構成され、「屋台・宮昇殿」「昇殿・神田丸」「唐楽鎌倉・仕丁舞・印場」の7曲による組曲となっています。乗り物で神霊を送り迎える「屋台」から、神霊が宮に入った後神官による行事の場面を経て、行事の片付けの「印場」までの情景が曲で表現されます。笛の合図で太鼓を止めたり、笛の導きで場面が

平塚市には、国、県、市それぞれが指定する文化財があります。日頃触れることの少ない、貴重な文化財について御紹介します。

転換することに特徴があります。現在は屋台の曳航はありませんが、祭礼では上町・横宿・下宿の三町の屋台が境内に並び、囃子が披露され祭りを盛り上げます。

都市化が進み、伝統行事の担い手不足が叫ばれて久しい今にあって、伝統行事が残されていること自体が地域の財産です。歴史が継承されてきたことに加え、真剣な演者とそれを感じる見物人が一体となった臨場感が無形文化財の魅力です。この田村ばやしは音楽としても高く評価されており、地域の祭礼の範疇を超えて多くの人々にこの組曲を味わってもらいたいものです。



田村ばやし（「平塚の文化財」より）

姉妹都市提携25周年 ローレンスレポート⑦（最終回）

アメリカ・カンザス州ローレンス市と平塚市は平成27年9月21日に姉妹都市提携25周年を迎えました。これを記念した連載7回目（最終回）は、2016年10月12日から6日間、落合市長を団長として平塚市公式訪問団（9人）がローレンス市を訪問した内容をお伝えします。

10月12日（水）

成田国際空港からカンザスシティ空港へ到着。ローレンス市内到着後は、歓迎レセプションが開催され、ボブ・シャムローレンス市姉妹都市諮問委員会委員長ら関係者約30人が集まりました。

10月13日（木）

ダウントウンを散策。マサチューセッツ・ストリートにあるローレンス市長（当時）の経営する理髪店、ローレンス・アートセンターなどを巡り、市役所で市長を表敬訪問しました。

ローレンス市新図書館も訪問。2014年に建設され、図書やDVDの貸し出しはもちろん、映像や音楽の編集スタジオを備えた最新施設で、なんと返却はドライブスルーでできるそうです。訪問団はこの日から2泊のホームステイを開始、アメリカの生活を体験しました。

記念式典・祝賀会はダウントウンから車で30分ほどの牧場レストランで、カウボーイたちの出迎えとバンド演奏があり、バッファローを見学するなどローレンス市の豊かな自然を体験しました。ローレンス各界の代表者約120人の方が



贈呈した記念品が飾られた新図書館。
アレン館長夫妻と

集まり、落合市長がマイク・エイミックス市長（当時）へ記念品「七夕飾り刺繍絵」を贈呈しました。原画の作者は若林薫氏で、平塚市役所そばにアトリエを構える美術家です。

10月14日（金）

カンザス大学を訪問。KUバスケットボールの歴史など展示されているディブルス・センター、専用アリーナであるアレン・フィールドハウスを見学。「日本人（明治大学学生）に初めてバスケットボールを教えた」という展示があり、訪問団の興味を引きました。

オマリー飲料を訪問。従業員30人のビール問屋で、6つの郡の600のレストランにビールを卸しています。ローレンスの地ビール、アメリカやドイツビールのほか、日本の銘柄も扱っていました。

10月15日（土）

各ホストファミリーと過ごし、夕方、お別れレセプションが開催され、約30人の関係者が集まりました。最後に、ローレンス市の受け入れ窓口として活躍したキャスリーン・カウボーイとカウガールが出迎えた記念式典・祝賀会ホッジさんに、訪問団を代表して落合市長がお礼を述べ、別れを惜しみながらの閉会となりました。



『史跡の風景』第19回(最終回) 古代のハイウェイ 東海道駅路跡



古代東海道駅路を検出した東中原遺跡

今から約1300年前、奈良の平城京に都を定め律令に基づく法治国家の建設を進めていたヤマト政権は「駅路」と呼ばれる道路網を持っていました。駅路とは、都を起点として全国の国府をつなぐ通信と物流そして軍事の要、国家経営の基盤となる重要な道路です。沿線に約16km毎に作られた「駅家(うまや)」という施設では馬や食料、宿所などが提供されました。現在のサービスエリアのような施設です。規定に基づくと相模国府があった平塚と奈良・京都の都とは最速で3日以内に連絡できたのです。

駅路は道幅6mから12mの規模で直線的に敷設されました。これは民衆に権力の大きさを示す象徴としての役割に加えて、馬を使った高速通信の便や兵士の迅速な移動を想定したことが理由に挙げられます。ところが、地域の交通需要とは別の理念で作られた駅路は日常的な利便性を欠き、律令制度が実質的な機能を失うに従って維持管理が放棄され、地下に埋没していくことになります。全国的に発掘調査された例が少なく、ルートの解明が難しいのはこのためです。

平塚では1994年(平成6年)に構之内遺跡第3地点で幅9mの



駅路の位置が示された遊歩道

道路遺構が見つかり、ガッチリと固められた道路面と規模から古代の東海道駅路と断定されました。そして2004年(平成16年)にその北東約300m地点で西側延長部の検出に成功し、東中原E遺跡第4地点と命名されたのです。



遊歩道上の解説板

両地点で確認された駅路の方向は西北西から東南東。東側は構之内遺跡内で方向を変えて、四之宮地区の相模国府中枢部へ向かいます。一方西側は、豊田地区の方向に延びて行く様子です。この先駅路が足柄峠を目指したことは疑いないのですが、その間どこを通っていったのかは謎のままです。

さて、東中原E遺跡第4地点では発掘調査終了後にスーパーマーケットが建設されましたが、建物が建てられた場所以外は発掘調査も掘削工事も行われていません。つまり、地中には古代の道路がそのまま保存されているのです。その位置は東側の遊歩道と北側の公園にペイントで示されています。現在の道路とは全く異なる道路の在り方が、奈良・平安時代の街並みと現在の街並みとの違いを際立たせています。しかし、史跡の話は永い時を越えて、私たちを先人と同じ空間に誘ってくれます。家族の思い出が一枚一枚ふえていくように、地域の歴史が刻み込まれてゆく「街のアルバム」。それが史跡の風景なのです。

(平塚市博物館学芸員)



駅路は平塚東中原郵便局近辺を横切っているはず

平塚市文化振興基金に御協力を

平塚市文化振興基金は、市民文化の振興を図るために活用されています。基金に御協力くださる方は、平塚市文化・交流課まで御一報ください。

(0463-32-2235)

平塚市文化振興基金に御寄附をいただいた方

(平成28年10月から平成29年1月(敬称略))

◆竹遊会(H28.12.15)

第44回ひらつか市民合唱祭

2017年3月5日(日)

平塚市中央公民館大ホール

入場無料

第1部 10時開演

第2部 13時30分開演

様々な合唱グループの美しいハーモニーをお楽しみください!

昨年の様子



発行

平塚市文化・交流課

〒254-0045 平塚市見附町 15-1 平塚市民センター内 電話 0463-32-2235 FAX 0463-31-6466

平成29年(2017年)2月15日発行 e-mail bunkoh@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ <http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/bunka/index.htm>

再生紙を使用しています